

いつの時代にも選ばれる学校づくり

～北海道美深高等養護学校あいべつ校の開校初年度の取り組み

北海道美深高等養護学校 校長 佐々木 誉 之
北海道美深高等養護学校あいべつ校 教頭 櫻 田 拓 也

1 はじめに

北海道美深高等養護学校あいべつ校は、石狩川と愛別川が流れる自然の恵に囲まれ、きのこの一大生産地でもある、心豊かで笑顔がつながる町、愛別町に北海道美深高等養護学校の分校として平成26年4月に開校した。

あいべつ校は愛別町の各方面の方々による熱心な誘致活動の結果、旧愛別高等学校の空き校舎を活用することにより開校し、町民、企業、行政の方々の力強い御支援をいただき、学校と企業とが互いに連携し就労に必要な学習を進める「デュアルシステム」などを中核とする教育活動の充実に努めている。

第1期生14名を迎え、教育活動はすでに始まっている。全職員が一丸となって、家庭や地域から信頼される学校づくりを目指すとともに、生徒の社会参加と自立を促す高い専門性に基づいた質の高い教育活動に取り組み、共生社会に生きる教育実践を進めたいと考えている。本稿は、この新たな学校づくりを推進する初年度の構想について述べる。

2 あいべつ校の概要

(1) 校訓「思考・実践」

「思考・実践」は旧愛別高等学校が制定していた校訓である。あいべつ校の教育目標に掲げる自分自身を発見する過程を「思考」、よりよく生きる生き方を具体的な形で表すことを「実践」と捉える新たな意味を込め、伝統ある校訓を継承する。

(2) 学校経営の基本理念

① キャリア教育の推進

教科等の学習や作業学習、現場実習等の教育活動全般を通して、社会生活能力の確立と、自分自身を見つめ、将来に向けてよりよい選択・決定できる力を育てる。

② 地域とつながる教育の推進

愛別町をはじめ上川中部地域での体験学習やボランティア活動、他校との交流や共同学習を積極的に行うほか、地域から外部講師を招いて行う授業や、作業学習で製作した製品を地域で販売するなど、開かれた学校を目指す。

③ 特別支援教育の推進

教育や福祉と連携し、困り感を抱える児童生徒や、幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校への積極的な支援を行う、上川中部地域における特別支援教育のセンター校としての役割を果たす。

(3) 教育目標

生徒が自分自身を見つめ、自己を認識すると共に、新たなことに挑戦する中で、新しい自分を発見できる教育活動を保障したい。そのキャリア教育は、単に職業生活への移行を目的とするだけでなく、自己の「生き方」「在り方」を見つめ、周りとの関係の中でよりよく選択・決定できる力を育むことが重要となる。このような考察から、教育目標を「自分らしく、よりよく生きる人を育てる～自分自身を発見する～」と設定した。

(4) 特色

① 産業総合科の利点を生かした教育課程の編成

作業学習としては、食品、流通・サービス分野（調理・食堂サービス、清掃・カークリーニング）、栽培、加工、製作分野（食品栽培・乾燥、印刷、木工）、環境整備分野（除草、除雪）等の多様な内容を設定し、生徒のニーズや時節に応じた活動を柔軟に選択できるように工夫している。

② あいべつ校デュアルシステムの導入

学校と企業が連携し、将来の職業自立に必要な働く力や生活する力を最大限に高めるために、愛別町内の企業や公的施設において、1年生後期から2年生前期までの期間、毎週火曜日に企業内作業学習を実施する。現在、その円滑な実施のために愛別町において企業等連携協議会の設立準備を進めている。

③ 自主通学による社会性の伸長

愛別町内限定での自転車通学や路線バス、JRといった公共交通機関を活用した通学を行うことで、自立や社会参加に必要なスキルを身に付ける。

(5) 基本データ

学 校 名	北海道美深高等養護学校あいべつ校
所 在 地	上川郡愛別町字南町27番地
開 校 日	平成26年4月1日
学 科	産業総合科
入学者数(H26年度)	14名（旭川市13名、他1名） ※2間口16名定員
教職員数(H26年度)	18名 校長1（兼務）、教頭1、事務長1（兼務）、教諭8、養護教諭1、実習助手2、事務職員2、介護員1、公務補1

3 学校づくりの3つの観点

(1) いつの時代にも選ばれる学校づくり

道内の知的障がい特別支援学校高等部（職業学科設置校）の出願者数については、年度を追って増加し、今後もその傾向は続くだろうと予想されている。平成27年度公立特別支援学校配置計画案（平成26年6月 北海道教育委員会）においては、平成28年度の見通しとして道北地区で「3学級相当の間口の確保を検討」と明記されている。当面、あいべつ校において受検希望者が定員を極端に下回るという状況は想定できないが、例えば10年後あるいはその先に道北地区の間口が過剰となる可能性はないとは言えない。

開校初年度より、このような危機感を学校職員や愛別町関係者と共有しながら、生徒をしっかりと社会自立へ導けるよう愛別町と学校が連携した教育活動を充実させ、いつの時代にも選ばれる学校づくりを進めたい。

(2) 共生社会の形成に繋がる学校づくり

「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合いながら、社会に積極的に参加・貢献していく全員参加型の社会である。共生社会の形成に向けては、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要がある。あいべつ校を共生社会の理念を体現し、その在り方を具体的に示していくことのできる学校としていきたい。

(3) ユニバーサルデザインをベースとした学校づくり

「いつの時代にも選ばれる学校づくり」と「共生社会の形成に繋がる学校づくり」を具体的に推進するための中心的な手だてがこのユニバーサルデザインをベースとした学校づくりである。ユニバーサル・デザインの7原則と3付則から、その原理・原則を適切に読み取り、学校づくりを進めたい。その際に、生徒の現在・過去・未来に寄り添いながら3年間の在学期間において、継続的、発展的な教育活動を保障する秩序化と、学校の特色ある取り組みを明確にする個性化に充分留意していきたい。

4 学校づくりの方策

(1) あいべつ校 Start up policy (平成26年度)

新年度初回の職員会議で校訓「思考・実践」を礎とし、学校教育目標を達成するために、学校経営方針と共に、次の3つのCを「あいべつ校 Start up policy」としてまとめ、新しい学校づくりに邁進する全ての職員の心構えとして共通理解した。

- Challenge ～ 挑戦・行動
 - ・新たな歴史と伝統 ・柔軟な発想と独創性 ・試行錯誤 等
- Creation ～ 構築・実現
 - ・教育活動 ・学習活動 ・業務推進 等
- Collaboration ～ 参加・連携
 - ・地域連携 ・ケース会議 ・合意形成 等

(2) ユニバーサルデザインから学校づくりの3つの視点

6月上旬の開校式終了後、本格的に学校づくりを進めて行くにあたり、職員会議において、ユニバーサルデザインをベースとした学校づくりの視点を3つ職員に示した。(図1参照)

① Cool/かっこよくの視点について

共生社会の形成に繋がる特別支援教育をユニバーサルデザインの原則に基づいて考えるとき、その教育が如何にも障がいのある生徒向けに特化した方法ではなく、生徒に障がいがあってもなくても過不足なく意欲的に学ぶことができる教育の場を作り上げていくことが大切である。ユニバーサルデザインは物理的障壁の除去や緩和を指すと同時に、精神的な障壁を含めて対処することを要求するものである。あいべつ校で教育を受けようとする生徒もそうでない生徒も、そこで学ぶことに躊躇したり、引け目を感じたり、差別意識を持つことのないように、学校の内外においてあらゆる配慮と取り組みを進めることが必要である。

② Friendly/親しみやすくの視点について

全員参加型の共生社会は、人々の多様性を公平に優しく受容する社会環境の創造を目指すものであり、ユニバーサルデザインの理念にも適合する。あいべつ校は、まず第1に教



図1 職員会議資料6/20

育相談に訪れる生徒や保護者にとって、敷居の高さを感じさせない学校でなければならぬし、さらに地域の教育資源として、関係者や地域の皆様にも親しまれる学校づくりをしていきたい。特に、生徒や保護者の教育的ニーズを丁寧に見出し共通の理解に立ち、そのニーズに徹底的に応えながら、生徒の将来の人生に確かな道筋を見いだしていくことが、親しみやすい学校づくりの要と考え、特別支援学校におけるホスピタリティの向上を推進する。

③ Easy／分かりやすいの視点について

特別支援学校の本分である「分かる授業」「できる授業」をユニバーサルデザインの視点を取り入れて展開する。本校においては、分からない、できない経験を積み重ねてきた生徒も在籍している。分かる・できる授業により、生徒が「生きる力」を高め、自信を持ち意欲的に自らの生活を営んでいく態度も養っていきたい。ユニバーサルデザインによる分かる・できる授業づくりは、これまで特別支援教育において実践されてきた各生徒の理解の程度を高めるための個別的な支援を、一般的な教育手段として恒常的に取り込んでいこうとするものでもある。経済面や効率面などで一定程度の制限が生じる現状ではあるが、授業のねらいを達成するために分かりづらい部分を改善し、分かりやすい授業を追究する。

(3) 自己目標シートの活用

あいべつ校の自己目標シートの「学校設定項目」では、「今年度の具体的な目標」を「ユニバーサルデザインをベースとした学校の創造」と設定した。今後、面談をとおして職員それぞれの取り組みをサポートし、授業づくり、学校の情報提供や業務推進など、学校の活動全てを対象として、ユニバーサルデザインの理念を取り入れた学校づくりを職員一人一人の意識改革と創意工夫をもって推進していくために、自己目標シートをそのツールとして活用する。

(4) 研修

教育実践に関わるユニバーサルデザインの在り方について、情報収集や研修を進める。現在、以下の研究会に職員の派遣を検討中である。

①第6回授業のユニバーサルデザイン研究全国大会 9月13日(土)～14日(日)

②第2回授業のユニバーサルデザイン研究アカデミー 9月15日(月)

※①②主催：授業のユニバーサルデザイン研究会 会場：筑波大学附属小学校

(5) あいべつ校UDアワード

校内におけるユニバーサルデザインに関わる意図的な取り組みを集約し、優れた取り組みを見出すものである。その過程では、公平性、柔軟性、単純性、直感性、安全性、認知性、効率性、経済性、持続可能性、審美性などの要素に照らし合わせ検討しながら、学校におけるユニバーサルデザインに必要な要素や勘所を明らかにし、取り組みの促進をねらいとしている。ユニバーサルデザインによる学校づくりの全校的な状況を全ての職員で共通理解し共有化することで、取り組みの観点や成果などを学び、次年度の取り組みをより充実させる。

(6) 学校評価の活用

共生社会の形成に繋がる特別支援教育をユニバーサルデザインの理念を踏まえ具体化していく過程では、独りよがりの自己満足に陥ることのないように注意することが大切であり、そのために第三者の客観的な評価が非常に重要である。学校評価では、その自己評価や学校関係者評価、第三者評価にユニバーサルデザインに関わる項目を取り入れ、今年度の成果や次年度に向けての課題を客観的に把握する。その評価の際には、今年度の学校づくりの取り組みを出来るだけ詳しく紹介し、評価の一助となるように配慮したい。学校評価の活用により、学校運営を改善しその教育水準の向上を図りながら、適切に説明責任を果たし、保護者や地域住民等の理解と参画を得ながら学校づくりを進めていく。

(7) 60点主義

初年度、新たに配置された職員は、それぞれが新設校を積極的に希望し異動してきた。人事を進めた前校長の配慮もあり、新しい学校づくりに必要な人材が揃っていると感じている。教育活動や分掌業務に関わることなど何から何まで新たに作り上げなければならない状況で、どの職員も妥協することなく、完成度にこだわり仕事に取り組んでいる。

私は、常に100点以上をねらって仕事を進める職員集団の性質を踏まえ、あえて今年度は仕事の仕上がりは60点でいいと伝えている。そのねらいは、2つある。ひとつは、評価と改善を繰り返すスパイラルなプロセスを業務ルーティンに取り入れ、成長し変わり続ける姿勢を身に付けてほしいこと。もうひとつは、職員同士が意見を交わしながら、互いに良い点を認め合い譲り合いながら合意形成をすすめるチームワークを学校文化として根付かせていきたいということである。

5 さいごに

美深町にある本校と分校の距離は、片道約80kmである。4月の開校以来、週1回ペースであいべつ校で勤務するようにしている。私は、今回の異動で2つの学校を校長として兼務することになった。学校経営にあたっては、「教育に正解はない」ということを念頭に置き、学校の特色をそれぞれに最大限に生かしていきたいと考えている。学校の特色を一言で述べるとすれば、美深町の本校である北海道美深養護学校は開校31年目を迎え、持続可能な選りすぐりの教育活動を展開する歴史と伝統のある特別支援学校の老舗であり、その分校であるあいべつ校は、21世紀型の新しい特別支援教育の創造を目指すベンチャースクールである。

本校は6間口の大規模校であり、社会自立に向けて生徒を教育する様々なシステムが有機的に機能している。職員集団は大きいですが、平均年齢が若く、初任者、期限付が半数以上を占めている。そこで、自己目標シートの学校設定項目は、テーマをDiscover Bifuka ~ 開校31年目を迎えてとし「改めて学校の生徒、職員、組織、自らの良さを発掘する」と設定した。良さを言語化し再確認し、それを戦略的に活かしていきたいと考えている。

一方のあいべつ校は小規模校である。あいべつ校の少数精鋭とは、少数の精鋭が集まっているのではなく、少数だからこそそれぞれが精鋭として育つ職員集団である。あいべつ校の職員には、新しい学校づくりに精力的に取り組み、将来はその経験やスキルを他校において発揮し、共生社会の形成に繋がるキャリア教育を深化させながら、北海道の特別支援教育の充実を担う人材としての活躍を期待している。

参考・参照資料・文献

- ・「北海道美深高等養護学校あいべつ校の概要」記者配付資料 北海道教育委員会
- ・「平成27年度公立特別支援学校配置計画案」平成26年6月 北海道教育委員会
- ・「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」平成24年7月23日 中央教育審議会初等中等教育分科会
- ・「ミッションマ・ネジメントによる特別支援学校の経営」鈴木重男他 情緒障害教育研究紀要第26号2007
- ・「ユニバーサル・デザインの7原則と3付則」<http://media.nuas.ac.jp/~robin/Jpn/note/universal.htm>
- ・「ユニバーサルデザインの研究報告」環境複合研究所 <http://envcom.jp/index1.html>
- ・「ユニバーサルデザイン授業実践事例集」岩手大学教育学部付属学校
www.edu.iwate-u.ac.jp/file/UDjissenjireisyuu.pdf
- ・「ユニバーサルデザイン授業」京都府総合教育センター
www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/cms/index.php?key...179
- ・「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」山形県教育センター www.yamagata-c.ed.jp/
- ・「任せ方の教科書」出口治明 角川書店2013